

防空用防毒面

引間 隆文



「防毒面」とは、いわゆるガスマスク・防毒マスクのことです。

今回ご紹介するこの「防空用防毒面」は、昭和 15(1940)年に東京・王子にあった昭和化工と言う会社で製造されたものです。防毒面には「吸収缶」と呼ばれるフィルターが、マスクに直接付いている直結式と、ホースで接続されている隔離式があり、この防毒面は隔離式です。「防空用」とありますが軍用ではなく、主に警防団(今の消防団に相当)や一般市民が着用したものです。

昭和 12(1937)年に制定された「防空法」には、「防空」の定義として「陸海軍以外ノ者ノ行フ灯火管制、消防、防毒、避難及救護竝ニ此等ニ関シ必要ナル監視、通信及警報」とあり、「防毒」は早くから重視されていました。第 1 次世界大戦で欧州を中心に甚大な被害を生じさせた毒ガス兵器は、核兵器がまだなかった当時の人々にとっては、最も残虐な兵器として脅威に感じられたのでしょう。

防毒面は、防空訓練でよく用いられたこともあり、比較的広く普及した装備でした。しかし、実際の空襲は、焼夷弾や爆弾の投下によるものが主であったため、出番はほとんどありませんでした(例えば出番があったとしても、密着性に難があるこのマスクが、どれほど役に立ったのかは疑問とされています)。

毒ガスなどの生物・化学兵器は、後に開発された核兵器と合わせて「NBC兵器」(「ABC兵器」とも)と呼ばれる大量破壊兵器として、今もなお人類の大きな脅威となっています。

この夏、当館で開催される飯能市平和都市宣言記念「ヒロシマ・ナガサキ原爆資料展」では、大量破壊兵器である原爆の惨禍を今に伝える実物資料などが展示されます。広島・長崎の資料が一堂に会することは珍しく、とても貴重な機会となっていますので、ぜひご覧ください。

本展が、平和について考えるきっかけとなれば幸いです。(民具 No.3964)

【参考文献】

水島朝穂「防毒マスクが似合う街」『三省堂ぶっくれっと』No.116、三省堂書店、平成 7(1995)年
アグスティン・サイス著 村上和久訳『日本軍装備大図鑑』原書房、平成 24(2012)年